

平成17年11月22日

各 位

会 社 名 三菱製紙株式会社
代 表 者 代表取締役社長 佐藤 健
(コード番号3864、東証・大証各1部)
問 合 せ 先 執行役員
社長室経営企画部長 板倉 完次
電 話 03-3213-3763

フェニックス プラン（中期再生計画）策定実施のお知らせ

三菱製紙株式会社（本社：東京都千代田区丸の内三丁目4番2号）は、このたび、2007年度までの経営計画を策定し、今後実施してまいりますので、お知らせいたします。

当社は、激変する企業環境のもと、一層の生産性向上に加え、北上工場の分社化及び徹底した収益改善・印刷感材事業の再構築・物流費の見直し・創立以来初めての希望退職実施等による人件費削減、など多方面に渡る収益改善施策を展開してきております。

しかしながら、合併の白紙撤回後の当社を取り巻く状況は厳しく、さらなるグループ企業体の改革が必要となっており、この「フェニックス プラン」を策定しました。

今後の当社の目指す姿は、技術開発力を活かした「特色ある製紙メーカー」です。すなわち、「市場競争力のある印刷用紙ブランドメーカー」を指向し、かつ、「特殊紙の拡大と、新規事業分野の拡大強化」を実施します。

この計画を「成長への準備」と位置づけ、コスト構造改革と財務体質改善を推進することによって、「強固な経営基盤」を確立いたします。

記

1. 計画の名称

フェニックス プラン（中期再生計画）

2. 計画期間

2005年11月 ～ 2008年3月

3. 計画の位置づけ

計画期間を「成長への準備期間」と位置づけ、コスト構造改革と財務体質改善を推進することによって、「強固な経営基盤」を確立する。

4. グループの目指す姿

「特色ある製紙メーカー」

- ・「市場競争力のある印刷用紙ブランドメーカー」を目指す。
戦略投資を八戸工場に集中し、コスト競争力と非価格競争力をつける。
- ・「特殊紙の拡大と、新規事業分野の拡大強化」を行う。
長年に亘る技術蓄積を活かし、それを更に進展させる。

5. 再生への5つの方針

(1) 高コスト体質からの脱却

- ・コスト構造改革の実施
- ・総コストを5%削減（三菱製紙の人件費総額20%削減を含む）
06・07年度のコスト削減合計 83億円

(2) 財務体質強化

- ・資産売却による有利子負債20%の削減と、金利負担の軽減
06・07年度の有利子負債削減合計 400億円

(3) 紙への集中と、新規事業の強化

- ・印刷用紙事業を強化すべく、八戸工場に戦略投資200億円を集中投資
（経営投資総額425億円、内：戦略投資総額は275億円）
06・07年度の投資効果合計 25億円
- ・新商品比率の向上
07年度の新商品比率 25%へ
- ・技術開発力を結集し、新規事業分野の拡大強化
新規事業の売上高成長率 年率50%へ

(4) 北上ハイテクペーパー株式会社の黒字化および定着

- ・徹底したコストダウンの実施
- ・レジコート原紙の需要に即した生産体制
- ・他銘柄への生産拡大
04年度比、50億円以上の収益改善
06年度黒字化を目指す

(5) 洋紙流通強化

- ・三菱商事株式会社とのコラボレーション推進
三菱製紙販売の総合販売力強化、開かれた販売会社へ
- ・専属代理店メリットの追求、業務改革の徹底
三菱製紙販売株式会社の07年度経常利益 10億円へ

6. 経営数値目標

計画（連結ベース）

（単位：億円）

	実績	計画		
	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
売上高	2,347	2,300	2,300	2,350
経常利益額	17	35	45	70
売上高経常利益率	0.7%	1.5%	2.0%	3.0%
有利子負債残高	1,940	1,740	1,640	1,540
売上高有利子負債比率	83%	76%	71%	66%
総資本経常利益率	0.5%	1.1%	1.5%	2.3%
株主資本比率	17%	20%	22%	24%
従業員数	期首 期末	5,260人 4,902人	4,800人	4,800人 4,700人

7. 推進体制

以下9つのプロジェクトで構成する推進委員会にて、徹底した構造改革に取り組む。

- コスト構造改革
- 研究体制構造改革
- 新規事業強化
- 事業構造改革（分社的経営）
- 業務構造改革（BPR）
- 洋紙流通強化
- 物流強化
- 人事制度改革
- ガバナンス改革

以上の概要にて、全社一丸となり不退転の決意のもと取り組んでまいりますので、得意先・株主をはじめとする関係者の皆様には、旧来に増してのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上